

“偽物 DX”を構造で料理する戦略

2025 年 11 月

著者：前田稔（エムズスタイル LLC）

【概要】

世の中には「BI＝DX」「可視化＝分析」「ダッシュボード＝変革」という誤解が広がり、表層的な DX 研修や BA 育成が“偽物”としてはびこっている。本ホワイトペーパーでは、それらを構造的に分析し、「本物の DX」へと導くアプローチを提示する。

【1. 背景】

近年の DX 推進においては、「データに見える化した＝変革した」と誤解されるケースが後を絶たない。Domo や Tableau など BI ツールの普及により、グラフや指標の可視化が容易になった一方、因果構造の理解や経営設計の再構築が伴っていない。この構造欠如が“偽物 DX”の温床となっている。

【2. 偽物 DX の構造的な原因】

1. 結果（数字・グラフ）しか見ていない。
2. 因果構造を扱える人材がいない。
3. 経営が構造を要求していない。

これらは単なるスキル不足ではなく、思考の構造そのものの問題である。構造的視点を持たないままツール導入や研修を進めても、変革は一時的・表層的に終わる。

【3. 対応戦略 — “料理法”としてのアプローチ】

以下では、前章で述べた「構造欠如」を解消するための考え方を、便宜的に「構造知性」と呼び、その具体的な適用方法を整理する。

(1) 定義で上書く：

本物の BA（Business Analysis）¹/DX を Definition Contract で明確化する。曖昧語の使用を排し、目的・対象・評価指標を再定義する。

¹ 本ホワイトペーパーにおける Business Analysis とは、単なるデータ分析者や BI ツールの操作を指すものではない。本稿では、事象の背後にある因果構造を捉え、経営や業務の意思決定に資する構造的理解を提供する役割を「構造知性型 BA」と定義する。

(2) 構造で可視化する：

行動知性 BA と構造知性 BA の違いを「深さマトリクス」として図解し、どこまで因果を扱っているかを可視化する。

(3) 教育で再構築する：

構造知性型 DX 研修を開発し、従来の「ツール操作研修」から「構造思考訓練」へと軸を移す。

(4) 思想で差別化する：

“DX＝構造の再設計”という思想を中心に据え、表層的 DX との知的レイヤー差を明確にする。

【4. 今後の展開】

このアプローチは単なる批判ではなく、“上位互換”としての戦略である。表層 DX の限界を認めつつ、構造 DX への進化を提唱することで、企業の知的成熟度を一段引き上げることができる。

【5. 結論】

DX の本質はデジタル化ではなく「構造の再設計」である。BI や AI を使うことが目的ではなく、それらを通じて「世界をどう再構成するか」が問われている。本物の DX とは、構造を見抜き、動かす知性の実践に他ならない。

本ホワイトペーパーについて

本ホワイトペーパーは、
前田 稔（エムズスタイル LLC）による独自の調査・分析および
構造知性フレームワークに基づき作成されています。
本資料は、特定の解決策や結論を提示するものではなく、
判断に必要な構造や視点を整理することを目的としています。

著作権・利用条件

本資料に含まれる文章・図表・分析内容・構造フレームワークは、
著作権法および関連法令により保護されています。

本資料の利用条件は、以下に定める

「ホワイトペーパー利用規約」に従うものとします。

 <https://emz-style.com/whitepaper-terms>

利用区分の概要

- 無料版（要約・抜粋）
社内共有・紹介目的での利用は可能です（改変・商用利用不可）
- 有料版（個人）
個人学習目的に限り利用可能です（社内共有不可）
- 法人向けライセンス
社内での配布・研修・教育用途での利用が可能です

※詳細は上記利用規約をご確認ください。

最後に

本資料をお読みになり、

- 判断に迷う点がある
- 自社の状況に当てはめると違和感がある
- このまま進めてよいのか確信が持てない

と感じられた場合は、

それ自体が重要なサインです。

ご相談・ご質問は、以下よりお気軽にお寄せください。

 <https://emz-style.com/contact>

（※法人向けのご相談・講演・研修のご依頼もこちらから承っています）